

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標	自ら学び、考え、発信する子供の育成		
--------	-------------------	--	--

a ミッション	小中連携教育を核とした確かな学力定着の取組の充実と発展	a ビジョン	○児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校
---------	-----------------------------	--------	--

尾道市立美木原小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学びを創る	「考える 伝え合う力」の育成	読解力の向上	①フレームリーディングによる「読むこと」の指導 ②学習に関わる取り組み（思考ツール・ノート・板書・テスト誤答分析など）の交流 学期末テスト・活用テストの校内平均点（国語科 思考・判断・表現の観点） （12月）標準学力調査の平均通過率（国語科）	全国平均以上	84.7 （全国平均は84.4）		100.4	A	国語科の読解力を見取る学期末テスト・活用テストの校内平均点は84.7と全国平均を上回った。 しかし、学年や児童による差が大きく、児童の実態やつまずきを正確に把握し、個に応じた適切な指導が必要である。また、問題の条件に合わせて自分の言葉でまとめ、適切に表現することができていないことに課題が見られた。さらに、内容のまとまりを捉え切れていないことも課題である。そのことにより、段落同士のつながりを捉えることができない要因となっている。	○			・引き続き、児童一人一人の個に応じた学びに取り組んでいただきたい。 ・フレームリーディングによる成果を他校とも共有し、より高めて欲しい。長い目で効果を期待したい。 ・本好きな子供になって欲しい。そのため環境づくり（人、物、場）を工夫して組んでいる様子が良く分かった。	・自分の考えを整理する機会を意図的に設定し、自分で考えをまとめる授業や、表やグラフ、図・式が表すことを考えたり自分の考えを図や式、言葉で説明したりする授業の工夫を行う。 ・相手意識をもち、分かりやすく論理的に伝えることにできるよう、ペアやグループでの活動を意図的に取り入れ、表現に慣れるよう授業改善を進める。 ・個に応じた指導の充実について、職員間で交流し、実態に応じた指導の充実を図る。
生活に参画する	児童自らが学校生活を創る特別活動の充実	主体性の向上	①委員会活動の充実 ②学校のために進んで活動している児童に対して、児童同士が肯定的評価を行う。	主体性に関するアンケート（肯定的評価） 7月・12月・2月実施	上半期 75% 下半期 85%	90.1	120.1	A	児童による「美木原アンケート」の結果、主体性に関する項目では、肯定的評価をした児童が90%おり、目標の75%を上回った。上半期では、児童会の挨拶運動、体育委員会のドッジボール大会、保健給食委員会のドントラン名人、図書委員会のスタンブラリー等を実施した。また、ありがとうカードの放送を行い、児童同士が感謝を伝える良さを感じることでできる活動を行った。しかし、低学年の意見を取り入れた活動を実施できておらず、委員会活動に主体的に参加する学年に備りがあった。また、2学期は、全児童が学校生活を創っていると感じられるように、企画や活動を工夫する必要がある。	○			・肯定的評価が目標値を上回ったことは良かった。 ・低学年の意見を取り入れながら、「みんなが美木原小学校を創っている」と感じて欲しい。 ・児童が立案して行う行事は達成感があった。 ・「ありがとうカード」で、周りの人の良いところを探し、認めていく素直な心葉大切であり、子ども達にはずっと持ち続けて欲しい。	・低学年の児童にも、自分達の意見が学校全体に反映される経験を積み重ねさせることで、所属意識を高めさせる。 ・「ありがとうカード」の取組を継続し、学年を超えてお互いを大切にしたり、感謝したりする心情を育てる。
働き方改革	豊かな教育活動の実践	よりよい働き方による勤務時間外在校等時間の減少	①教職員間の連携 ・業務の見直し・優先順位・児童の実態・学級経営の取組についての交流 ②業務予定や時間設定を明確にした働き方 ・自己申告による日々の退勤時刻を設定・会議や部会等の時間設定・予定業務にかかる時間確保	長期休業以外の勤務時間外在校等時間の平均	45時間以下 80%	64	80	B	1学期の勤務時間外在校等時間の平均が4.5時間以下の職員は6.4%で目標の80%を上回ることができなかった。退勤時刻が遅くなる職員への声掛けを継続していく必要がある。日々の教職員間の声掛けや連携はできているが、全体での定期的な交流が十分でなかったため、月に1回の全体交流を確実に実施し、業務の見直しを持ち、足並みを揃えた取組ができるようにする。朝の出動時に個々が退勤時刻を設定する習慣が定着してきている。設定した退勤時刻を全職員が守れるようセルフタイムマネジメントを行う必要がある。	○			・学校現場を取り巻く環境は厳しく、取り組む仕事量も多く、時間外勤務も多いと思いますが、退勤予定時刻設定を習慣化し、定着を図っていただきたい。 ・中教審提言の中に、年間の授業時間数が国の基準を大きく超える学校に改善を促すこと、行事では前例にとらわれた部分をやめ時間を削減すること、保護者の過剰な要求に組織的に対応し教育委員会も体制を構築すること等が示されている。この提言が長時間労働の是正につながり、先生方から歓迎される内容になっていればいいと思った。 ・繁忙期や開校期、役割分担の内容や経験年数の違いなどで個人差が出るのは仕方ないと思いますが、互いに理解し認め合えばより良い声かけや気配りにつながると思う。	・校内体制を見直しを図り、校務の分担を整理し直した。2学期以降、主任・主事がより中心となり、組織的に業務に取り組むことを全職員で確認し、取り組む。 ・交流の時間を計画的に位置づけられるよう、1ヶ月ごとのスケジュールを見直した。

【自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成)
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。